

令和3年度大学教育再生戦略推進費 「知識集約型社会を支える人材育成事業」計画調書

[基本情報]

1. 大学名	早稲田大学							
2. 機関番号	32689							
3. 事業者 <small>(大学の設置者)</small>	ふりがな たなか あいじ (氏名) 田中 愛治	(職名)	理事長					
4. 申請者 <small>(大学の学長)</small>	ふりがな たなか あいじ (氏名) 田中 愛治	(職名)	総長					
5. 事業計画責任者	ふりがな すが こういち (氏名) 須賀 晃一	(所属・職名)	副総長					
6. メニュー	メニューⅢ インテンシブ教育プログラム							
	事業計画名	ソーシャルイノベーション・アクセラレートプログラム						
7. 取組学部等名【授与する学位】 ・受入学生数(1学年あたり、事業最終年度)	<p>■取組学部等名【授与する学位】 社会科学部社会科学科【学士(社会科学)】</p> <p>■受入学生数(1学年あたり、事業最終年度) 630名</p>							
8. 事業計画のポイント(400字以内)	<p>本事業の主体となる社会科学部は、「学際性」「臨床性」「国際性」の3つの教育理念を掲げ、多領域の専門分野と学際教育を活かした課題解決型教育や社会連携実習を臨床教育の場として実践する特色的なカリキュラムを有す。インテンシブ教育を通して、①知を結集させるCross-Disciplinary Approachの早期定着化による「学際性」の深化・多面化、②能動的学習機会の拡大による「臨床性」「国際性」の伸展を目論む。これにより学生の高い目標意識を促し、学生の成長を加速化(アクセラレート)させる。①の過程で新たに学際教育ルーブリックを開発し、学修成果の可視化・学際教育のモデル化を図る。加えて、①②の過程で推進されるクォーター制の教育成果を検証し、全学へ展開する。高度な知を集約してグローバルイシューに取組み社会変革を共創するソーシャルイノベーターの育成とともに、本学の教育システム改革を牽引する。</p>							
9. 学生・教職員数	学生数				教職員数(R3.5.1)			
		入学定員 (令和3年度)	全学生数 (R3.5.1)	収容定員 (令和3年度)	定員充足率 (R3.5.1)	教員数	職員数	合計
	学部	9,090 人	38,685 人	36,810 人	105.1%	2,076 人	924 人	3,000 人
	大学院	4,563 人	8,409 人	10,167 人	82.7%			
合計	13,653 人	47,094 人	46,977 人	100.2%				
10. 大学が設置する全ての学部等名	政治経済学部、法学部、文化構想学部、文学部、教育学部、商学部、基幹理工学部、創造理工学部、先進理工学部、社会科学部、人間科学部、スポーツ科学部、国際教養学部							
11. 連携先機関名(他の大学、民間企業等と連携した取組の場合の機関名)	該当なし							
12. 学校教育法施行規則第172条の2第1項において「公表するものとする」とされた教育研究活動の状況について、公表しているHPのURL	https://www.waseda.jp/top/about/disclosure/organization-and-purpose							

(大学名:早稲田大学)

(事業計画名:ソーシャルイノベーション・アクセラレートプログラム)

13. 事業計画経費(単位:千円) ※千円未満は切り捨て						
年度(令和)	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	合計	
事業規模	43,675	25,800	22,150	14,000	105,625	
内訳	補助金申請額	43,675	25,800	22,150	14,000	105,625
	大学負担額					

※1. 文部科学省や他省庁が実施する他の補助金は「大学負担額」に計上しないこと。

※2. 国立大学における運営費交付金、公立大学における運営費交付金等、私立大学の私立大学経常費補助金等は「大学負担額」に計上しないこと。

【④事業全体計画概要】 ソーシャルイノベーション・アクセラレートプログラム

教育システム改革

- ◆クォーター制の実質化（実装の拡大・効果創出）
 - ・能動的学習の機会拡大（学生側）
 - ・教育・研究力の強化促進（教員側）
- ◆教育効果検証におけるIRの活用促進
 - ・学びの自己構築サイクルの加速化、学際教育効果の可視化

全学波及・学外波及

- ◆質保証システム
 - ・インテシブ教育の効果検証の方法や教学に関するデータ分析体制
- ◆高度な学際教育モデル
 - ・課題解決型授業への「高度化移行」、専門分野特化授業への「学際化導入」
 - ・学際ルーブリック、メンター制度 等

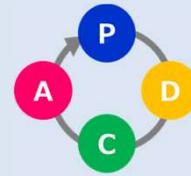


インテシブ教育

実証分析

大学総合研究センター

- ・教育効果の調査・分析
- ・学際教育ルーブリックの実践
- ・FD・SD研修 等



コミュニティ・社会開発

グローバルイシューの解決



平和構築・国際協力

SDGs

イシュー×ディシプリンによる
新たな知「学際研究の方法」

学問の基礎「ミニマム・ディシプリン」

全学基盤教育・データサイエンス教育

インテシブ教育の導入
(アクセラレート)

Cross-Disciplinary Approach

教養→問題解決までやる高度な学際教育

育成する 人材像

高度な知を集約しグローバルイシューに
取組み社会変革を共創する
ソーシャルイノベーター



答えのない問題に挑戦する 多様性を理解する
「たくましい知性」「しなやかな感性」

Waseda Vision 150

導入の効果

学生側

能動的学習
の機会拡大



- ・留学、サマースクール

- ・NPO
- ・スタートアップ
- ・共同研究

- ・インターンシップ
- ・ボランティア
- ・フィールドワーク

教員側

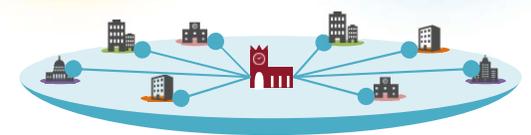
教育・研究力
の強化促進



- ・FD（教授法習得）
- ・学生への密な指導

- ・社会貢献活動

- ・研究時間増加
- ・国際共同研究拡大
- ・オープンイノベーション



自己点検
「学際ルーブリック」
学びの自己構築
サイクル

eポートフォリオ

セーフティネット・
メンタリングチーム



社会科学部
学際教育アプローチ

Inter-Disciplinary Trans-Disciplinary



「答えのない問題に、自分なりの解決策を考え出せる知性」「多様性」を有する人材の育成が急務！

Society5.0に向けた
知識集約型社会における
大学の役割の変化

教育（知識の獲得）
研究（知識の創造）



知識の獲得
知識の創造 + 知識の共有
社会変革の共創

